

～女性参加の地域力UP!～

下妻市まちづくり女性スタッフ提言式

まちづくり女性スタッフ(第10期)14人は3月23日、女性の目線から考えた「人にやさしい夢のあるまちづくり」の意見などをとりまとめた提言書を、稲葉市長に提出しました。

2年間にわたり、行政の現状に関する勉強会や現地視察を重ね、市の活性化につながる取り組みを話し合いました。特に平成27年9月関東・東北豪雨の体験から地域のつながりの大切さを再確認し、「地域力UP!」をキーワードに、4つのテーマで提言しました。



提言の概要

■ 未来につなげる地域防災

- ・ 防災マップの災害予想地域の再点検と避難所の見直し
- ・ 自主防災組織制度の周知と組織づくりの推進など

■ 地域にやさしい公共交通

- ・ 高齢者タクシー利用券の一回に使用できる金額を自由にするなど、利用者のニーズに応じた制度への見直し
- ・ コミュニティバスを導入し、いつでも行きたいときに出掛けられる、きめの細かい運行計画の整備など

■ 絆を強めるたまり場づくり

- ・ たまり場(気軽に立ち寄れる居場所)を市民の力で運営できる仕組みづくりと場所の提供
- ・ ひとり暮らし高齢者給食サービスの自宅へ届けることに併せ、地域のコミュニティセンターに集まって食事をを行い、交流を図るなど

■ 市民の意識を高め観光・産業を活性化

- ・ 市のイベントに、はとバスツアーや観光バスを誘致する
- ・ 市の良いところをインパクトのある方法で全国に向けてPRを行う など



女性スタッフ提言書

提言書の提出にあたり、関口妙子座長からは「地域のつながりが薄れてきていると言われていますが、昨年9月の水害を受け、地域力の重要性をスタッフ全員が身をもって実感し、その地域力をさらに向上させ、次世代へつなげていこうという思いにあふれました。行政にできること、私たちにできること、役割分担があります。私たちにできることは小さなことですが、それらが集まったとき、大きな地域の力になることを確信しています」とあいさつがありました。

提言書の内容をテーマごとに稲葉市長に説明し、意見交換を交わす中で、女性スタッフからは「人と人のつながりの大切さや市と市民の協力体制が重要」との意見が強調されました。

市では、これらの提言を受け、「地域力の再生」と「下妻市の魅力度アップ」を目指して、市民の皆さんと市が信頼しあい協働してまちづくりを進められるよう、提言を市政に取り入れていきたいと考えています。

問い合わせ 市民協働課 ☎43-2114

有料広告欄

下妻駅前広場に花いっぱい「立体花壇」登場



花のポットで立体花壇を飾る参加者

下妻駅前広場で3月26日、花のまちしもつまをアピールしようと市が設置した「立体花壇」に初めて花植え作業が行われました。地元の老人会ゆうゆうクラブのメンバーや関東鉄道スタッフ、市職員など26人が彩りを考えながら花のポットを立体花壇にはめ込みました。

高さ2.3メートル、幅5メートルの立体花壇は、壁の両面1184か所に花のポットを植えることができ、水やりはタイマーで管理されています。ゆうゆうクラブ会長の石川恒雄さんは「下妻駅に降りた人たちが、この花壇を見て気持ちが和らぎ、きれいと感じてくれたらうれしい」と鮮やかに彩られた立体花壇を見上げていました。

立体花壇は年2回程度、季節の花に植え替えを行い、いつでも花いっぱいの駅前が下妻を訪れる人たちの目を楽しませます。

いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

「いばらきスポーツアカデミー・ソフトボール体験教室」開催

平成31年に開催する茨城国体に向けて、将来の選手として活躍が有望視される子どもたちを発掘し、計画的に育成・強化することを目的とした「いばらきスポーツアカデミー・ソフトボール体験教室」を2月27日、千代川運動公園野球場で開催しました。

講師に女子ソフトボール競技の北京五輪・金メダリストで、2014年全日本大学女子ソフトボール選手権に優勝した東京国際大学女子ソフトボール部監督の三科真澄氏を迎え、県内の中学女子ソフトボール部員を中心に参加した総勢149人が実践的な技術を学びました。

午前中はキャッチボールやボール回しなどの基本動作にはじまり、午後からはバッテリーと野手に分かれてのポジション別の専門的な技術指導や、女子大生投手の迫力ある投球を打席に立って体験したり、三科氏によるバッティングの実演を見学したりと、子どもたちは真剣な表情で取り組んでいました。三科氏の熱心な指導には、東京国際大学女子ソフトボール部と下妻二高女子ソフトボール部の選手たちも指導補助として加わり、子どもたちと一緒に実技やゲームなどを通じて体験教室を盛り上げました。

体験教室の最後に設けられた質疑応答で、「試合中、流れを自分のチームに引き寄せる秘訣はあるか」との女子中学生の質問に、三科氏は「たとえ失敗しても、チーム全体でカバーできるような雰囲気づくりを心がけること。どんな試合展開になっても、決してあきらめない、強い心

を持って試合に臨むこと、この2点がしっかりできていれば試合の流れを引き寄せることができる」などと熱く語り、技術の向上だけでなく、メンタル面の重要性も伝えました。

閉会式で、茨城国体での活躍を目指す子どもたちを前にした三科氏は「常に『感謝の気持ちを忘れない』ということをお願いしたい。今日学んだことを一つでも継続して平成31年の茨城国体で結果を残してくれればうれしい。みんなでソフトボールの輪を広げてほしい」とエールを送りました。

問い合わせ 生涯学習課 ☎45-8100



子どもたちの前でスローイングの基本動作を指導する三科氏

有料広告欄